

病理学：細胞の変化、循環

40-052 誤っている組合せはどれか。

1. 萎縮———正常な組織の縮小
2. アポトーシス—プログラムされた細胞死
3. 肥大———細胞数の増加
4. 過形成———組織の容量の増大
5. 化生—母組織が異なった組織に変化した状態

40-053 浮腫を説明するのはどれか。

1. 血管透過性の低下
2. リンパ管の拡張
3. Na⁺と水分の貯留
4. 血漿蛋白量の増加
5. 毛細血管内圧の低下

42-049 萎縮の原因で誤っているのはどれか。

1. 栄養の低下
2. 血液供給の減少
3. 対臓器の一側の欠損
4. 仕事負荷の消失
5. 内分泌刺激の消失

43-050 萎縮の機序で誤っている組合せはどれか。

1. 長期臥床による筋萎縮———廃用
2. 水頭症による大脳萎縮——持続的圧迫
3. 総腸骨動脈狭窄による筋萎縮—血流の減少
4. 末梢神経損傷による筋萎縮——神経支配の消失
5. 下垂体腫瘍による視神経萎縮—内分泌刺激の減少

43-051 褥瘡発生の要因でないのはどれか。

1. 低栄養
2. 高血圧
3. 浮腫
4. 筋萎縮
5. 末梢神経障害

44-050 加齢に伴う骨格筋の萎縮で正しいのはどれか。

1. 細胞のアポトーシスである。
2. 退行性変化の1つである。
3. 筋原性変化が特徴である。
4. 筋線維がマクロファージに貪食される。
5. 筋線維が結合組織に置換される。

44-051 廃用性筋萎縮で正しいのはどれか。

1. 筋原線維は保たれる。
2. 筋内神経線維は保たれる。
3. 筋張力は保たれる。
4. 筋線維の蛋白質合成は保たれる。
5. 筋萎縮の進行速度は神経切断後と同程度である。

45-A-075 アポトーシスで正しいのはどれか。

1. 細胞環境の悪化によって生じる。
2. 高濃度の酸素投与で予防できる。
3. マクロファージの浸潤を伴う。
4. DNAの断片化が生じる。
5. 核が膨張する。

45-P-075 生理的加齢によって脳の容積が縮小しているときの細胞の状態はどれか。

1. 壊死
2. 化生
3. 萎縮
4. 変性
5. 異形成

48-A-075 疾患と病理学的変化の組合せで正しいのはどれか。

1. 多発性硬化症———脱髄
2. Binswanger病———感染
3. Huntington病———炎症
4. Creutzfeldt-Jakob病———出血
5. Charcot-Marie-Tooth病———虚血

50-A-075 疾患と病理変化の組合せで誤っているのはどれか。

1. Parkinson病———大脳白質の変性
2. 多発性硬化症———中枢神経の脱髄
3. Huntington病———線条体の変性
4. Alzheimer病———大脳皮質の変性
5. 筋萎縮性側索硬化症———脊髄前角細胞の脱落

病理学：炎症、免疫

41-049 関節の慢性炎症で誤っているのはどれか。

1. 骨塩量の減少
2. 軟骨の変性
3. 組織内の好中球集積
4. 結合織の増殖
5. 血管の増生

42-036 免疫系に関与しないのはどれか。

1. 骨髄
2. 扁桃
3. 胸腺
4. 脾臓
5. 膵臓

42-050 創傷治癒で癒痕組織の形成に主に関わるのはどれか。

1. 角化細胞
2. メラノサイト
3. 血管内皮細胞
4. 線維芽細胞
5. 脂肪細胞

42-052 急性炎症と比較したとき、慢性炎症の特徴で正しいのはどれか。2つ選べ。

1. 血漿蛋白の浸出
2. 血管内皮細胞の損傷
3. 好中球の集積
4. 組織の線維化
5. 血管の増殖

42-054 正しいのはどれか。

1. B 細胞は細胞性免疫を担当する。
2. T 細胞はサイトカインを産生する。
3. マクロファージは T 細胞から分化する。
4. 形質細胞は抗体が結合した物質を貪食する。
5. ナチュラルキラー細胞は免疫グロブリンを産生する。

43-036 ヒトの免疫機構で正しいのはどれか。

1. ヘルパーT リンパ球は免疫反応の抑制に働く。
2. キラーT リンパ球は他の免疫細胞を破壊する。
3. 好中球はサイトカインを産生する。
4. B リンパ球は抗体を産生する。
5. 副腎皮質ホルモンは免疫機能を亢進させる。

43-053 遅延型アレルギーで正しいのはどれか。2つ選べ。

1. 抗原抗体反応によって起こる。
2. 抗原暴露後、発現までに1週間を要する。
3. 主にB リンパ球が関与する。
4. リンホカインで細胞集積が起こる。
5. ツベルクリン皮内反応を起こす。

44-036 免疫グロブリンについて正しいのはどれか。

1. 唾液中には含まれない。
2. T 細胞が抗原の刺激を受けて産生する。
3. IgG は血漿中に占める割合が最も少ない。
4. IgE はアレルギー反応に関与する。
5. IgM には胎盤透過性がある。

44-054 炎症の仲介物質の作用で正しい組合せはどれか。

1. ヒスタミン———血管透過性の亢進
2. セロトニン———発熱
3. ブラジキニン———マクロファージの活性化
4. ロイコトリエン———疼痛作用
5. プロスタグランジン——白血球の活性化

45-A-077 細菌感染による急性炎症反応で増加するのはどれか。2つ選べ。

1. 肉芽腫
2. 好中球
3. 網状赤血球
4. ヘモグロビン
5. プロスタグランジン

45-P-065 人の免疫機構で正しいのはどれか。

1. B 細胞は細胞性免疫を担当する。
2. T 細胞は活性化して形質細胞となる。
3. マクロファージは T 細胞から分化する。
4. ナチュラルキラー細胞は体液性免疫を担当する。
5. ヘルパーT 細胞は B 細胞を活性化する。

46-P-065 IgE が関与しないのはどれか。

1. 気管支喘息
2. ツベルクリン反応
3. アトピー性皮膚炎
4. アレルギー性鼻炎
5. アナフィラキシーショック

47-A-076 急性炎症の初期にみられないのはどれか。

1. 発赤
2. 腫脹
3. 疼痛
4. 熱感
5. 拘縮

48-A-066 生体の防御作用としてB細胞リンパ球が産生するのはどれか。

1. アセチルコリン
2. 興奮性アミノ酸
3. 免疫グロブリン
4. インターフェロン- γ
5. インターロイキン-2

48-P-076 I型アレルギーはどれか。

1. 自己免疫性溶血性貧血
2. アナフィラキシー
3. ツベルクリン反応
4. ループス腎炎
5. 重症筋無力症

49-A-066 ヒトの免疫機構で正しいのはどれか。

1. B細胞は抗体を産生する。
2. 好中球はサイトカインを産生する。
3. キラーT細胞は他の免疫細胞を破壊する。
4. ヘルパーT細胞は免疫反応の抑制に働く。
5. 副腎皮質ホルモンは免疫機能を亢進させる。

49-P-077 移植後の拒絶反応について正しいのはどれか。

1. 自家移植で生じる。
2. T細胞が活性化される。
3. I型アレルギー反応である。
4. 抗体が移植片の細胞を損傷する。
5. 宿主と移植片のHLAが一致すると起こりやすい。

病理学：感染

41-072 重症急性呼吸器症候群（SARS）で誤っているのはどれか。

1. 飛沫感染である。
2. 病因はウイルスである。
3. 微熱で発症する。
4. 高齢者では致死率が高い。
5. 患者の隔離が感染拡大防止策である。

41-067 標準予防策（Standard precaution）で誤っているのはどれか。

1. 感染のある患者を対象とする。
2. 血液と痰は湿性生体物質に含まれる。
3. 湿性生体物質を扱う場合には手袋を用いる。
4. 湿性生体物質が飛び散る恐れがある場合にはガウンとマスクを用いる。
5. 手袋の使用後には手洗いを行う。

41-073 誤っているのはどれか。

1. AIDS（後天性免疫不全症候群）は HIV（ヒト免疫不全ウイルス）感染によって生じる。
2. HIV は喀痰から感染する危険が高い。
3. HIV は T リンパ球を死滅させる。
4. HIV 感染による死因のほとんどは日和見感染症である。
5. AIDS 発症の抑制に有効な治療薬がある。

42-089 正しいのはどれか。

1. 標準予防策(standard precaution)は、感染患者への標準的対処法をいう。
2. 空気感染は、咳やくしゃみなどによる飛沫核によって生じる。
3. 間接接触感染は、感染患者への医療行為以外の接触で生じる。
4. 血液、体液、排泄物に触れるときは、手袋を着用する。
5. 使用済み注射針は、キャップをして廃棄する。

43-070 皮膚疾患で他の患者への感染に留意すべきものはどれか。

1. 皮脂欠乏性湿疹
2. 接触皮膚炎
3. 尋常性乾癬
4. 蕁麻疹
5. 疥癬

44-068 院内感染対策として適切でないのはどれか。

1. ワクチン接種
2. 二次感染の防止
3. 感染経路の把握
4. 抗菌薬の予防的投与
5. 院内ガイドラインの作成

46-A-085 ウイルス感染症に比べ細菌感染症に認められやすい特徴はどれか。

1. 高熱
2. 発疹
3. 蛋白尿
4. 好中球増多
5. 無痛性リンパ節腫脹

46-A-088 中枢神経の感染症と病原体との組合せで誤っているのはどれか。

1. エイズ脳症———ウイルス
2. Creutzfeldt-Jakob (クロイツフェルト・ヤコブ) 病——プリオン
3. 進行麻痺———スピロヘータ
4. 日本脳炎———ウイルス
5. 急性灰白髄炎 (ポリオ) ——細菌

47-P-066 細菌貪食能が最も高いのはどれか。

1. 単球
2. 好酸球
3. 好中球
4. リンパ球
5. 好塩基球

47-P-076 感染症について誤っているのはどれか。

1. 飲食物を介する感染を経口感染という。
2. 感染しても発症しないことを不顕性感染という。
3. 母親から新生児に経母乳性に感染することを水平感染という。
4. 2種類以上の病原体に同時に感染することを混合感染という。
5. 弱毒菌にもかかわらず容易に感染症を起こすことを日和見感染という。

47-P-092 感染症について誤っているのはどれか。

1. 帯状疱疹は水痘と同じウイルスが原因で発症する。
2. 疥癬はネズミによって媒介される。
3. ニューモシスチス・カリニ肺炎は日和見感染症である。
4. 黄色ブドウ球菌による食中毒は毒素性である。
5. レジオネラ症は空調設備が感染源となる。

48-A-077 ウイルスによる感染症はどれか。

1. トキソプラズマ症
2. ジフテリア
3. カンジダ症
4. トラコーマ
5. 帯状疱疹

49-A-078 飛沫感染するのはどれか。

1. MRSA(メチシリン耐性黄色ブドウ球菌)
2. インフルエンザウイルス
3. Clostridium difficile
4. B型肝炎ウイルス
5. 緑膿菌

49-P-093 溶連菌感染と関連があるのはどれか。

1. 猩紅熱
2. ガス壊疽
3. 帯状疱疹
4. 手足口病
5. 急性灰白髄炎

50-A-77 細菌感染によるのはどれか。

1. 梅毒
2. 痘瘡
3. 風疹
4. 猩紅熱
5. トラコーマ

50-A-086 病原体と主な感染経路の組合せで正しいのはどれか。

1. 結核———経口感染
2. MRSA———接触感染
3. 破傷風———媒介動物による感染
4. A型肝炎———血液による感染
5. 帯状疱疹———飛沫感染

50-P-082 院内感染対策として適切でないのはどれか。

1. 二次感染の防止
2. 感染経路の把握
3. ガウンテクニック
4. 抗菌薬の予防的投与
5. 院内ガイドラインの作成

50-P-086 HIV(ヒト免疫不全ウイルス)について誤っているのはどれか。

1. HIV感染によりニューモシスチス・カリニ肺炎の発症率が上昇する。
2. AIDS(後天性免疫不全症候群)はHIV感染によって生じる。
3. AIDS発症の抑制に有効な治療薬がある。
4. HIVは喀痰から感染する危険が高い。
5. HIVはTリンパ球を死滅させる。

病理学：腫瘍

41-055 脳腫瘍で誤っているのはどれか。

1. 髄膜腫は良性が多い。
2. 膠芽細胞腫は悪性度が高い。
3. 神経鞘腫は顔面神経に好発する。
4. 増大すると頭蓋内圧亢進症状を呈する。
5. 神経線維腫症は皮膚色素沈着を合併する。

42-053 悪性腫瘍の特徴で誤っているのはどれか。

1. 転移が多い。
2. 再発率が高い。
3. 細胞の異型性が強い。
4. 浸潤性に発育する。
5. 細胞の分化度が高い。

42-055 若年者に多い腫瘍はどれか。

1. 子宮筋腫
2. 膵癌
3. 悪性黒色腫
4. 骨肉腫
5. 大腸癌

43-054 頭蓋内腫瘍で浸潤性に発育するのはどれか。

1. 神経膠芽腫
2. 髄膜腫
3. 聴神経鞘腫
4. 下垂体腺腫
5. 脂肪腫

44-055 病理学的な悪性度が最も高いのはどれか。

1. 髄膜腫
2. 血管芽腫
3. 神経鞘腫
4. 神経膠芽腫
5. 下垂体腺腫

45-A-078 良性腫瘍と比較した悪性腫瘍の特徴はどれか。2つ選べ。

1. 出血壊死が少ない。
2. 増殖の速度が遅い。
3. 細胞の分化度が低い。
4. 細胞の核分裂が少ない。
5. 周囲との境界が不明瞭である。

46-P-076 原発性脳腫瘍で最も予後が悪いのはどれか。

1. 膠芽腫
2. 上衣腫
3. 下垂体腺腫

4. 星状細胞腫
5. 乏突起膠腫

47-A-077 多発性骨髄腫に特徴的でないのはどれか。

1. 貧血
2. 腎障害
3. 易感染性
4. 病的骨折
5. 低カルシウム血症

48-A-076 重症筋無力症を合併することが多いのはどれか。

1. 肺癌
2. 乳癌
3. 中皮腫
4. 胸腺腫
5. 食道癌

49-A-076 良性腫瘍と比較した悪性腫瘍の特徴はどれか。

1. 異型性が低い。
2. 播種がみられる。
3. 細胞の分化度が高い。
4. 圧排性の発育形式をとる。
5. 周囲との境界が明瞭である。

49-A-077 小脳橋角部腫瘍で最も多いのはどれか。

1. 髄膜腫
2. 下垂体腺腫
3. 視神経膠腫
4. 聴神経腫瘍
5. 頭蓋咽頭腫

50-P-075 扁平上皮癌の特徴はどれか。

1. 粘液を産生する。
2. 神経組織に由来する。
3. 複数の胚葉成分を含む。
4. 細胞は相互に結合している。
5. 細胞間に間質成分がみられる。

50-A-094 大腸癌について誤っているのはどれか。

1. 食生活が発症に影響する。
2. 組織型は腺癌が最も多い。
3. 転移は肺転移が最も多い。
4. 我が国では胆管癌より有病率が高い。
5. 便潜血陽性が診断上重要な所見である。